

【今年度の結果と取組みについて】

〇●国語●〇

(領域ごと)	
①言葉の特徴や使い方に関する事項	良好な結果であった
②情報の扱い方に関する事項	良好な結果であった
③話すこと・聞くこと	概ね良好な結果であった
④書くこと	やや課題が残る結果であった
⑤読むこと	概ね良好な結果であった
(問題形式)	
①選択式	良好な結果であった
②短答式	良好な結果であった
③記述式	やや課題が残る結果であった
(無解答率)	概ね良好な結果であった
(その他)	全国より正答率が高かった設問…目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる 全国より正答率が低かった設問…図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる

分析	
1 傾向	選択式の問題については、全体的に正答率が高い。記述式については、全国平均を下回った問題もあり、苦手としている児童が多い。前半の記述式問題に時間がかかり、後半になるにつれて、問題に向き合う時間が少なかったのではないかと考えられる。
2 成果	漢字や基本的な文章の読み取りに関しては、正答率が高いと考えられる。
3 課題	記述式解答について、特に問題に提示された条件を満たしていない解答が多い。 日記や感想文など自由記述には慣れているが、文章から言葉を選択したり、問題の形式に合わせて解答したり、自分の考えを書くことに慣れていない児童が多い。
4 授業での重点的な取組み	自分の考えを、文章中の言葉を用いたり、根拠を見出して書いたりする授業における言語活動を充実させる。

〇●算数●〇

(領域ごと)

- | | |
|----------|-------------|
| ① 数と計算 | 大変良好な結果であった |
| ② 図形 | 良好な結果であった |
| ③ 変化と関係 | 大変良好な結果であった |
| ④ データの活用 | 大変良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 大変良好な結果であった |
| ② 短答式 | 良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 大変良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

全国より正答率が高かった設問 … 「知識・技能」で、特に短答式の正答率が高い傾向がある。
「数と計算」、「変化と関係」については、特に正答率が高い。

無回答率の高かった設問 … どの設問も全国より低いですが、特に記述式問題については、無解答率が他よりも高い傾向がある。

分析

1 傾向

どの問題の正答率も全国平均を上回っている。また、無解答率も全国平均に比べ、低い水準となっている。特に基礎的な問題については正答率が高い。

2 成果

教科書内容の定着がしっかりと図られていると考えられる。
基礎的な問題、とくに短答式の問題は比較的正答率が高い。

3 課題

図形を頭の中で操作し、新たな図形を創造したり、創造した図形の性質を見出したりすることや複数の情報を見比べ、見い出した違いを言葉と数を用いて記述することに課題がみられる。

4 授業での重点的な取組み

図形領域に関しては、直接図形を操作する活動を大切にし、学習内容の獲得、定着を図る。数値の読み取り、操作だけでなく、それらを日常生活の場面と関連付けて考える場面を作る。

〇●経年比較●〇

全体的な傾向についての分析

平均正答率については、ここ3年間は向上傾向にある。国語は前年度を下回ったものの、ここ数年の中では高い水準を保っており、算数についても、この3年間は向上傾向を継続している。ただし、各教科ともに記述式については、正答率が低い傾向があり、特に国語では、大阪府平均を下回っている問題もある。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・今年度は、国語は昨年度とほぼ変わらなかったものの、算数での正答率が高く、全体として学力高位層が増加し、低位層が減少する結果となった。
- ・エンパワー層についても、昨年度よりも改善し、今までで一番少ない割合となった。

〇●取組み●〇

学力向上に関する取組み

1 基礎学力の定着

- ・それぞれの学年で獲得した知識技能について、他単元、他学年でも「見通し」として取り入れるなど、スパイラルを意識した学習を行い、定着を図る。
- ・個に応じた指導、支援を要する場合のたてを充実させ、児童それぞれが課題や見通しをもち、進めることができる授業づくりを追究する。

2 言語活動の充実

- ・言語活動をとおして学習を進めていくことを大切にし、説明、論述、討論など、獲得した知識・技能を生かした活動を全ての教科で位置づける。
- ・答えが一つで明確な問題だけではなく、複数の答えがある問題、明確な解答がなく、納得解や最適解を導き出すような問題を活用し、教科に関係なく、単元に取り入れていく。

3 授業方法・内容の工夫と改善 指導と評価の一体化の推進

- ・めあてを明確にし、児童がこの1時間で獲得する力を意識したうえで、学習に取り組めるように考慮する。
- ・授業者が、評価規準を理解し、明確に示し、目指すべき方向性を児童と共有しながら、学習を進める。

4 学校全体としての取組み

- ・「書く」力の育成について、それぞれがつけたい力を明確に示す。さらに、各学年での取組みを共有し、発達段階に応じて、段階的に取り組むことができるようにしている。
- ・家庭学習の手引きを発行し、家庭に対して学校での取組みを発信する。学校と家庭が連携を深め、家庭学習活用の効果を高められるようにする。
- ・ユニバーサルデザインを意識した授業づくりを推し進め、だれもが安心して授業、学校生活に取り組める教室環境づくりを構成していく。